

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅱ1章1-7節>

### 1 (1-2) 神にとらえられた信仰者とは。 私たちも同じ！

ここを読むと、神様の御手の中にあると確信している者とはどういう者か、を強く思われます。パウロは、自分とテモテは「**神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされた**」(1)と書き、手紙の相手の信仰者たちのことも「**～にある神の教会と、～の聖なる者たち(神に属する者たち)へ**」と表現し、「もうみんな、神と一つになって生きている」と思っていることが伝わって来るからです。その時に、普通に考える恵みや平和とは違う「**わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和**」を求め祈るようになります。これら全ては私たちにも当てはまることです。

### 2 (3-5) キリストの苦しみの意味が、苦しみと慰めの理解を変える。

普通は、苦しみが解決された時に慰めが与えられたと考えるのに、ここでは、苦しみの中にある者が苦しみの中にある人を慰められる、とされています(4)。そのすぐ後(5)を読むと、パウロが、キリストが受けられた苦しみを考えながら自分や他の信仰者の受ける苦しみを考えていることが分かります。ここで大事なことを教えられます。キリストが受けられた苦しみとその意味を知ると、私たちも苦しみに対する考え方が変えられるということです。キリストの苦しみ、それは私たちの罪の赦しのための苦しみでした。そのありがたさを知ったなら、慈愛に満ちた神様を讚美せずにはおれなくなるのです(3)！(Iテモテ 1:15、映画「ミッション」の弟を殺したメンドーサ、またアウグスチヌスの場合)

### 3 (6-7) 私の悩み苦しみがあなたの慰めと救いとなる、とは？

ここを読むと、ただ、自分の苦しみからの解放と慰めだけを考えるのではない、苦しみの中で覚えられる慰めを知った者が苦しみの中にある者に伝えて慰め、励ますことのできる「**恵みと平安**」、つまり、「**わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和(神との関係を考えての訳！)**」を考えなければならぬことを教えられます(2)。キリスト教が単に自分個人で徳を高める宗教でなく、教会(礼拝共同体)の枝として生きることが重要である理由がここにあります。